

昭和十八年三月

糸崎港修築計畫調查委員報告

糸崎港修築計畫概要

三系

港灣協會

11R
21/11/29.

調査經過概要

一、昭和十七年六月一日三原市長八原昌照氏より知事副申を以て調査方依頼せらる。
一、同年六月二十三日本會は審議の結果右依頼に應ずることとし左記の通調査委員を委嘱す。

主 査

工 學 博 士 安 藝 杏 一

委 員

内務省大阪土木出張所長 高 橋 嘉 一 郎

同

鐵道省鐵道監 三 浦 義 男

同

元大阪商船株式會社副社長 太 田 丙 子 郎

同

元大阪北港株式會社常務取締役 山 本 五 郎

一、同年七月十七日安藝主査、高橋、太田、山本の各委員、西岡廣鐵工務部長、鶴岡幹事、橋本、小松兩囑託、恩田調査部員の一行は本港の實地調査をなし且つ座談會に於ける地方民の希望、意見並に諸資料に基き七月二十日宿舎に於て第一回委員會を開催して審議を重ね大體意見の一致を見たり。

爾來主査に於て立案せる計畫に就き第二回委員會を東京に於て開催し地元縣市當局の參加を求めて審議を重ねたる結果、茲に大體の成案を得たり、仍て主査に於ては

更に慎重検討を加へ該案を以て一應文書に依り各委員の意見を求め會長の決裁を
經て茲に本港計畫案の決定を見たり。

昭和十八年三月

港 灣 協 會

目 次

第一章 港の沿革及現況.....	一
第二章 修築計畫要綱.....	六
第三章 修築計畫の説明.....	一三
第四章 工期及工費概算.....	二三

附圖 糸崎港修築計畫平面圖三

糸崎港修築計畫概要

第一章 港の沿革及現況

三原市は昭和十一年十一月三原町、糸崎町外四箇村の合併により市制を施行せるものにして、現在戸數八千九十四戸、人口四萬二千三百十一を有す。本市は三原平野を除き土地概ね高く北方に緩傾斜をなして龍王、八坂、大畑等の諸山脈に連り、鐵道山陽線及國道二號線は東西に貫通し、鐵道吳線は本市より分岐し、南は近く瀬戸内海の主航路たる三原水道に展開し海陸要衝の地なり。

元治元年(皇紀二五二四年)三原城主淺野忠敬は儒者宇都宮龍山の進言により海面約五町歩を埋立て之に船溜を築造し松濱港と稱せり。之を以て本港修築の嚆矢とす。現在の糸崎船溜即ち之なり。沿岸干潟地の開拓は遠く元和の昔に遡る。即ち同八年(二二八二年)には頼兼新田、正保元年(二三四〇年)には横山新田、延寶二年(二三三四年)には天保東濱新開、元祿十三年(二三六〇年)には宮沖新開等が開拓せら

れ明治維新後に於て圓一新開、大正新開等が逐次開拓せられたり。爾來是等開拓地の大部分は或は住宅地に或は工場用地に利用せられたるも、尙ほ大正新開は水田として南濱新開は鹽田として現存す。

舊糸崎港は明治三十二年特別輸出港となり神戸税關支署、廣島遞信局海事部を設立せられ、又大正十一年には内務省の指定港に編入せらる。本港は港内水深く天然の良港にして明治四十年紐育スタンダード石油會社の油槽設置を見、更に大正年間に糸崎製粉、黒瀬製材、日東セメント（後淺野セメントに併合）等相次いで創立せられ、本港の前途は愈々有望視せらるゝに至れり。然るに本港は其沿岸頗る亂雜にして公共用水陸聯絡施設整はず、港灣の利用上遺憾の點尠からざりしが、縣に於ても修築の必要を認め、昭和八年工費六十二萬餘圓を投じ糸崎驛の地先に第一號及第二號埋立地面積合計約三萬二千平方米の埋築、水深八・五米岸壁百三十五米、水深二米物揚場四百五十二米の築造、糸崎船溜附近に小型客船用浮棧橋の設置等各種の工事に着手し、同十四年度に竣功せり。然るに本工事に關聯して最も必要なる後方聯絡並に陸上設備の諸工事が未だに施行せられざる爲め是等重要なる諸施設が實の持腐れの觀を呈するは惜みても尙餘あり。

舊三原港は昭和十一年三原市成立前は舊糸崎港に隣接せる一地方港にして、昔は水深相當深く、同港南部に流出する沼田川は河口より上流約四軒の間舟楫の便を有し、米穀木材等の集散港として相當繁榮せしも、森林の濫伐等は河川の流出土砂を著しく増加し、逐年港内水深の減少を來し、漸次港勢の不振を招致するに至れり。之を以て舊三原町は明治四十四年には西港内外及運河の一部を浚渫し、大正十五年には工費四萬五千餘圓を投じ、古濱の突角より東港及新港に至る間を水深一・二米乃至二・二米に浚渫し、和久原川下流に砂止工事を施工し、昭和二年終了せるも是等の工事は孰れも一時的應急策にして其効果の頗る薄弱なりしは遺憾とする處なりき。然るに時勢の變遷は漸次本港が工業地帯として地の利を得たるを認められ、本港の根本的改修は緊急を要するものあるに至れり。即ち當時本港には東洋麻糸紡績を初め片倉製糸紡績、合同製塩、醸造業、帆布製織等の諸工場を有し、工業都市として漸次發展の途を辿りつゝ、ありしが、昭和七年更に帝國人絹三原工場建設の決定を見るに至り、多年の懸案たりし港灣改修の機運到來し、町は二十四萬四千餘圓の工費を以て沼田川河口左岸に長千百三十三米の防砂堤を築き、天保東濱新開地先より船溜に至る航路を水深四米に、船溜内を水深三米に浚渫し、浚渫

土砂を以て面積約三萬七千平方米の市街地を埋立て、船溜沿岸には水深二米長三百六十米の物揚場を築造し、西野川河口には長四十米、幅十一米の橋梁を架設せり。本工事は昭和八年起工同十年竣功せり。爾來本港は順調に進展し今や船溜は狹隘を告げ荷役場は混雜を呈するに至り、之が擴張は其他の港灣設備の改善整備と共に一般關係者の要望する所となれり。

斯の如く糸崎、三原の兩港は昭和十一年迄は各自別個に相當の進展を見たりしが、同年十一月三原市成立以來茲に兩港は打つて一丸となり、商港及工業港として勿論尙ほ仲繼港として將來一層の發展を期待せらるゝに至れり。

本港の後方地域は三原市以外八箇町六十箇村に跨り、人口二十一萬五千餘、生産額年七千六百萬圓に達す。三原市の産業は總額約六千萬圓にして内約九割五分は工產品に屬す。市内工場の主なるものは帝國人造絹糸、淺野セメント、淺野樹脂、東洋麻糸、倉田帆布、旭化學、糸崎造船等にして大小工場を合計すれば其數三十九に達す。尙ほこの外に三菱重工業糸崎工場が目下建設中にて其一部は已に操業を開始せり。

本港出入貨物は近年其正確なる數量を知るを得ざるも、昭和十五年に於ては大

體出入合計約百萬噸にして、出貨の主なるものは穀類、木材、セメント、酒、肥料、化學製品等、入貨の主なるものは鮮乾魚、食鹽、石炭、肥料、果實、藥品等なり。之を其取扱場所別に區分すれば大體左の如し。

糸崎船溜	十三萬噸
三原船溜	二十二萬噸
工場専用荷役場	二十七萬噸
鐵道専用荷役場	二十九萬噸
其他荷役場	九萬噸
合計	百萬噸

昭和十五年に於ける本港出入船舶は汽船二萬千八百隻、二百四萬登簿噸、帆船一萬九千四百隻、三十五萬登簿噸を算す。汽船は千噸以上のもの九十二隻、他は平均噸數約八十噸の小型船にして、帆船は一隻平均噸數約十八噸なり。汽船の最大船は一萬四百九總噸、帆船は百七十二總噸とす。

本港に寄港する定期航路は尼崎汽船の中國線及尾道今治線、大阪商船の山陽線、瀬戸内商船の多度津嚴島線、中國汽船の廣島尾道線及豐島尾道線、外に個人の經營

に係る二十線あり。發着回數は一日一回乃至六回(月一回乃至二回のもの二線あり)にして就航船の隻數は總計四十隻、其登簿噸數總計四千二百噸に達す。昭和十五年に於ける船客數は乗船八萬五千八百人、上陸十萬五千三百人、合計十九萬千八百人なり。

本港港域内水面積は四百八十八萬平方米にして内水深七米未満の分三百十八萬平方米、七米以上の分百七十萬平方米なり。風位風速は其詳細を知るを得ざるも最多風向は西及東にして西寄りの風最も多く、最強風位は西及南西なりとす。本港干満潮位差は大潮平均三・二米なり。

第二章 修築計畫要綱

一、本港は瀬戸内海の略中央に位する天然の良港にして瀬戸内海の主航路たる三原水道を直前に控へ、港内水深く水域又廣くして數多の大船巨舶を收容し得べし。又水道を隔て、岩子島、因島、鷺浦島等諸島嶼と相對し港内四時平穩にして防波工事施設の必要なし。陸には國道の東西に貫通するあり、國鐵山陽線中樞要驛の一たる糸崎驛の在るあり、吳線又本港より分岐す。本港は地の利を得

三原
水
道

たるものと云ふを得べし。紐育スタンダード石油會社が夙に本港に其貯溜所を設置し、セメント工場、人絹工場等相次で起り、最近三菱重工業工場の建設を見るに至りたるは蓋し故なきにあらざるべし。翻つて港灣施設の現況を見るに、港内沿岸の大部分は未だ整備せられず、鐵道専用の荷役場は頗る狹隘を極め、現下の必要に對應するを得ず、糸崎船溜は永く自然に放任せるため其利用價值著しく減殺せられ、三原船溜は近年多少の改良を加へたるも其水面並に荷役場は孰れも狹隘にして荷役亂雜を極め其能率良好なるを得ず、縣の施工に係る繫船岸壁及物揚場は竣功後已に二ヶ年餘を經過せるも未だ利用せらるゝの時期に到達せず、其他漁船船溜の不備、定期船舶客昇降の不便等遺憾の點尠からず。市が是等港の不利不便を認識し、茲に綜合的に本港の修築を企圖するに至りたるは現在我國の情勢より見て洵に意義深きものあるを覺ゆ。

二、本港が港灣として地の利を得たるは前に述べたるが如し。之を整備し之を改善し之を擴張し其機能を十分に發揮せしめ以て我國現下の情勢より推し近き將來に實現を豫想せらるゝ、輸移出入貨物の増加、仲繼貨物の輻輳等に對處せしむるの策を講ずるは最も必要なりと認めらる。而して之が爲には水陸聯絡

施設の改善及増築、倉庫地帯並に石炭、鑛石其他之に類する大量貨物の野積場の増設、工場用地の造成、後方聯絡道路及臨港鐵道の完備等は蓋し主要なるものなるべし。是等諸施設の完成は頗る大事業にして之に要する工費も亦多額に上るべく、市民各位の絶對なる奮闘努力と縣市の緊密なる一致協力とに依り始めて遂行し得るものと信ぜらる。

三、現在本港に出入する貨物の總噸量は大體百萬噸にして内公共荷役場を利用するもの約四十四萬噸と推定せらる。是等公共荷役場取扱貨物の内最も多量なるものは木材類にして其量約十四萬噸に達す。而して其大部分は陸路トラックに依り搬入せられ、水路及鐵道に依るものは現在にては其量多からずと雖も將來は相當の増加を見るものと豫想せらる。公共荷役場に於ける木材の取扱ひは夫自體に於て頗る不利不便を感じるのみならず、他の雜貨類の取扱ひに尠からざる迷惑を及ぼすを以て、木材は一般公共荷役場にて取扱はず、新に木材専用港を築設し之に木材加工工場を附屬し以て木材貿易の進展を圖るは蓋し策の得たるものなるべし。

四、本港修築の規準とすべき本港出入貨物噸量は現在の出入貨物總噸量より專

用荷役場を出入する貨物噸量(木材を含む)を差引きたるものに、近き將來に於ける自然増加を加算したるものにして、後者を前者の一倍半と見做し之を七十五萬噸と推定す。之の外に今後必然的に増大すべき東亞圈内貿易額の内本港にて取扱ふを以て有利なりと思料せらるゝもの相當多額に上るべきも、差當り之を五十萬噸と定め合計百二十五萬噸を以て本計畫の目標とす。而して大體に於て前者には在來の施設を整備擴張して之に充て、後者に對しては新に荷役場地先に倉庫地帯及野積場を造成し、本船及舢舨に對する水陸聯絡設備を完からしめんとす。尙ほ將來の發展を慮り適當なる埠頭設備擴張の餘地を保留すべきは勿論なり。

五、木材専用港の規模は現在の出入額約十四萬噸の外に近き將來に於て十六萬噸を増加するものと推定し、合計三十萬噸を取扱ふに適せしめ、尙ほ其區域内に相當面積の木材加工工場敷地を設定するに支障なからしむ。木材港の候補地としては、沼田川右岸和田地先の海面を選定せんとす。

六、本港泊地は水深に富み毫も浚渫を加へずして如何なる大船巨舶をも安全に碇泊せしめ得べし。而して既成の繫船岸壁は其水深八・五米にして八千噸級船

船を接岸せしめ得べく其計畫當を得たりと雖も、更に水深九米の岸壁を新築し一萬噸級船舶の接岸荷役をも可能ならしむる必要を認めらるゝを以て本計畫に於ける繫船岸壁の水深は之を八米乃至九米の二種類たらしめんとす。

内港荷役場に入出入する機帆船及舢舨等の小型船は現在百噸未満のもの大多數を占むと雖も、其船型は漸次増大の傾向にあるを以て本計畫にては船溜及水路の水深を四米に、物揚場の水深を四米乃至三米となし最大五百噸級船舶が汐の干満に拘らず出入可能にして且つ荷役に支障なからしめんとす。

物揚場の形式は普通に採用せる斜面式にするを以て或は便ならんとするも、本港の干満潮位差が三米以上に達するの事實と、今後港灣勞務者確保の困難等を考慮し物揚場の一部は之を直立式となし適當なる起重機を設備するを以て得策とすべし。

七、本港を利用する客船及貨客船の昇降船客數は一ケ年大體十九萬人にして、内島嶼間の交通は約六萬三千人に達す。現在の昇降場所は主として糸崎方面にして、縣は過般糸崎船溜の附近に船客昇降用浮棧橋一基を架設せりと雖も、種々の事情により今日尙ほ未だ其目的に利用せらるゝに至らず、船客の陸上の聯絡

は専ら傳馬船に依るの不便を忍びつゝあるは洵に遺憾なりとするを以て速に之が對策を講ずるの要あり。又更に三原船溜にも新に船客昇降用聯絡設備を設置し以て交通の便利を圖るは大に必要なりと認めらる。

八、本港は工業港として近年著しき發展を示せり。現在市内に於て尙ほ相當廣き工場適地を有するも、大工場を招致するには水陸聯絡至便なる臨海地帯造成の必要あり。幸にして本港港域内沼田川河口の兩岸地先の海面は水淺くして干潮に露出し、良質の埋立用土砂又最も便利に採收し得るを以て埋立工事は最も有利に施行し得べし。尙ほこの外に深海の埋立豫定地に接近し大型船の接岸容易なるべきこと、用水が豊富に得らるべきこと等は工場招致の好條件なり。前記兩埋立地の内左岸帝人地先のものは主として外地貿易地帯に豫定し、右岸和田地先のものを木材專用港及工場用地に充當せんことす。

九、糸崎驛發着貨物の一年間取扱數量は約三十萬噸にして、大部分は船車聯絡に依るものなり。貨物積卸設備としては石炭荷揚場、貨物積卸用電動テルフアー一基にして、其外に貨物上屋、貨物置場、工場専用側線等あり。取扱貨物の數量は事變以來増加の一路を辿り、特に最近船腹不足に因る海運よりの轉嫁貨物激増

し、諸施設の増強対策は目下の急務なるも構内狹隘にして擴張の餘地に乏しく現在以上の荷捌困難なる實狀にあり。速に縣管理立地に臨港線を敷設し其岸壁及物揚場の利用を圖るは焦眉の急に迫るものと云ふべし。

一〇、本港は由來活魚及鮮魚の集荷港にして内海物は概ね京阪地方、遠くは京濱地方に出荷せられ年額四百萬圓を下らず逐年増加の傾向にあり。又昨年十二月より各縣に於て鮮魚運搬船統制組合の機構を強化せらるゝに至り、愛媛縣同組合に於ては今治、松山、長濱の各船團並に大分縣の同組合等は已に本港を出荷仲繼地となし、又山口縣の近海物並に朝鮮共同水產會社の漁獲物の一部も鮮度の關係上本港に出荷を見んとするの狀態にあり、然るに本港の魚市場たるや其規模小にして頗る混雜を極め不利不便甚大なるものあり、其施設を擴大改善して陸揚作業の圓滑を圖り併せて貨物車への積込並にトラック輸送にも便ならしむるは目下の急務なり。

一一、本港の漁船溜は市内旭町に在り、長約四百米幅三十米の細長き水面にして東町運河により海に通ず。本船溜は創設以來改修を加へざるものの如く、永く泥土の沈澱に委せるを以て、今や干潮時には小舟の出入不可能なるの狀態にて

漁業は漸次衰頹の傾向を示しつつあり。抑も本漁船溜の位置たるや本市現在の情勢より見て適當なりと云ふを得ず、理想的には他の適當なる箇所に移轉せしむるの要あり。然れども漁港の新設は漁民住宅の移轉並に其他種々困難なる事情を伴ひ其實現容易なりとせず。之を以て漁港の新設は之を他日に譲り、差當り現在の船溜を浚渫し漁船出入の便を圖らんとす。

一二、上水道と道路とは孰れも都市特に港灣都市に於て最も重要な施設の一なり。本市は曩に上水道を完成せるも近年之が擴張の必要に迫られ工費九十萬圓を投じ昭和十八年度竣功の豫定を以て目下工事進捗中なり。然りと雖も港灣都市の發展は上水需要の激増を來すものなるを以て將來の萬全を期する爲め引續き更に之が擴張に關し調査計畫を進められんことを望む。本市の道路に就ては舊態依然たるものあり、交通頗る不便にして本市の發展を阻碍すること尠しとせず。之が改修は急務なり。

第三章 修築計畫の説明

一、船溜の改築

糸崎船溜は之を水深三米に浚渫し西岸及北岸の約半部には都市計畫道路(幅員九米)に接し長合計百二十米、幅十二米、水深二米の斜面物揚場を築設す。北岸の殘部及東岸は民地の買収、家屋の移轉等に多額の費用を投ぜざれば之を荷役場に改築するを得ざるのみならず、其實行又困難なるべきを以て本計畫に於ては之を現狀に留む。

三原船溜は其水面積を約二倍に擴張し、之を水深四米に浚渫す。西岸長百九十米は現在の道路を幅十米に擴張し、之に接して幅十五米、水深四米の直壁荷揚場を築造す。北岸長百九十米、東岸長百三十五米は都市計畫道路(幅十五米)の間に幅二十五米、水深三米の斜面荷揚場を築設す。

二、帝人地先に新設する港灣施設

帝人工場敷地の東方に當る海面長平均五百三十五米、幅三百六十米を埋立て、其西北部に長百五十米、幅八十米の舥船溜を穿ち、又埋立地の前面に長三百米、幅百五十米の繫船突堤を埋築す。埋立地の北側四百七十米及船溜の周邊三百八十米には水深四米の直壁又は斜面物揚場を、又突堤の北側三百米の内二百九十米には水深八米及九米の岸壁を設置し、他は總て護岸とす。但し突堤の南側は將

來必要に應じ適宜水深の岸壁に、又之に接する百八十米の護岸をも之を物揚場に改築するものとす。埋立地内には適當に道路及鐵道を配置し、尙ほ帝人工場敷地の南側を更に幅十米埋築して臨港道路を施設し、現在の道路幅五米を臨港鐵道の敷地に充つ。本埋立地は主として外地との貿易に利用せんとするものにして、其の大部分は之を保稅地區たらしむるを便とすべし。岸壁東寄りの一半は石炭の荷役に供し、其後方に貯炭場を設け、他の一半は雜貨の荷役場となし、後方に上屋倉庫を建設す。埋立地の北側及船溜の周邊には野積場及倉庫を適當に配置し、伸繼貨物の一時貯藏に便ならしむ。

三、木材專用港の新築

本港に於て近き將來に取扱ふ木材の總額を一ヶ年三十萬噸と豫定し、其四分の三を陸上に、四分の一を水上に貯木し、一ヶ年に六回交新するものとす。又必要面積は木材一噸に對し陸上は二平方米、水上は三七平方米とすれば所要陸地は七萬五千平方米、水面は四萬六千平方米にして、之に陸地に於ては工場用敷地三萬三千平方米、水面に於ては小型積載船の出入を慮り、其約三割を加算すれば所要面積は陸地は十萬八千平方米、水面は六萬平方米となるべし。

前記計算に基き圖に示す如く和田地先海面長五百米、幅三百五十米を木材港となし、其内に長三百米、幅二百米の貯木池を設置す。貯木池は水深二米に浚渫し其周邊は斜面となし木材の揚卸に便ならしむ。又其前面には長二百四十米の木柵を設け河水の出入を容易ならしめ、其兩端に幅三十米の出入口二ヶ所を存す。陸地は其面積約十一萬平方米にして圖に示すが如く埋立て、地内には適當に鐵道及道路を配置し、又便宜の地に木材加工工場敷地を設定す。

四、工場用地の埋築

沼田川河口右岸和田町及貝野町地先に圖に示すが如く面積約六十六萬平方米の海面を埋立て内十一萬平方米を木材港に、五十五萬平方米を工場用地に供す。埋立地の東部海面は水深急に深きを以て繫船突堤又は棧橋の築設に依り容易に大型船を接岸せしめ得べし。又埋立地の東南隅には小型船用船溜を設置し小型船に依る物資の出入を便にす。船溜は長二百米、幅八十米、水深二米にして其北岸及西岸は工場に専用せしむるも南岸は之を一般公共用に供す。尙ほ船溜内の平穩を期するため其東北端より長四十米の小防波堤を築出す。埋立地内に於ける工場専用鐵道線は大體圖面に示すが如く敷設す。

五、糸崎魚市場附屬施設の改善

糸崎魚市場前の海面長約百米、幅平均二十米を埋立て其前面に水深約三米の斜面魚揚場を築造す。同埋立地を更に東方約四十五米延長し船溜防波堤の先端に達せしめ、其中央部に現存の船客昇降用浮棧橋を移轉す。魚揚場の西方約四十米は鐵道省専用の荷役場にして本埋立地に準じ適當に其地先を埋築し機械設備を増設し以て其荷役能力を増加せんことを希望す。

六、船客昇降用浮棧橋の移轉及新設

曩に縣に於て施設し現在殆んど魚貨の陸揚に使用せらるゝ糸崎船溜附近の船客昇降用浮棧橋は前項に述べたる如く魚揚場東方に新に埋築する埋立地(長四十五米、幅平均二十米)の略中央に移轉す。而して浮函(長二十米、幅八米)を更に一基増設して其全長を四十一米となし、専ら大小の客船又は貨客船を横着けせしめ船客の昇降を便ならしむ。

三原船溜の西岸の南端附近に新に長二十米、幅八米の浮函一基より成る浮棧橋を施設し、主として本市と島嶼間を聯絡する小型客船の使用に供す。

七、内港水路埋立制限法線

内港水路の北岸は混亂の情態にあり將來當然起るべき埋立等を制限する必要あるを以て三菱重工業敷地の東南隅の直前百十米の點より東は縣營第一號埋立地の西南隅に、西は三原船溜の東南隅に引きたる線を以て其法線とす。即ちこの區間に於ける埋立其他の構造物はこの線以外に出るを許さざるものとす。この法線は對岸外地貿易地帯の北岸に平行し其距離は三百五十米及三百二十米なり。

八、浚渫及埋立

浚渫工事は各所に於て施行す。即ち糸崎船溜は水深三米に、漁船舟溜は一米に、内港水路及三原船溜は四米に、貯木池は二米に、貝野船溜は二米に、沼田川下流は適宜水深に浚渫するものにして其土量は左の如し。

外地貿易地帯地先	八二四、〇〇〇立米
糸崎船溜	一五、〇〇〇立米
内港水路及三原船溜及漁船舟溜	七三〇、〇〇〇立米
貯木池	六〇、〇〇〇立米
貝野地先船溜	一五、〇〇〇立米

沼田川下流

合計

二、〇〇六、〇〇〇立米
三、六五〇、〇〇〇立米

埋立工事施行の個所面積及所要土量は左の如し。但し埋立地の高は總て干潮面上四・二米とす。

糸崎船溜	二、二〇〇平米	一五、〇〇〇立米	(船溜外船客昇降施設埋立地を含む)
魚市場地先	二、〇〇〇平米	一五、〇〇〇立米	
三原船溜	七、七〇〇平米	四五、〇〇〇立米	
外地貿易地帯	二四一、二〇〇平米	一、〇二一、〇〇〇立米	
木材港及工場用地	六六〇、〇〇〇平米	二、五五四、〇〇〇立米	
合計	九一三、〇〇〇平米	三、六五〇、〇〇〇立米	

九、陸上設備

本計畫書に計上せる本港陸上設備は外地貿易用地帯埋立地に於ける臨港道路及鐵道の新設、上屋(長八十米幅二十五米二棟の建造と糸崎船溜に於ける上屋(長三十米幅八米一棟と既成第一號埋立地に於ける臨港鐵道及道路並に上屋(長五十米幅二十米一棟と、三原船溜に於ける道路の増築幅六米及上屋長三十米幅十

米二棟と木材港に於ける道路の新設等にして、臨港道路の内都市計畫に於て已に決定せるものは之を包含せず。又上屋は差當り必要と認めらるゝものを計上せるものなるも其位置、棟數及面積は實施に當り更に考査の上決定すべきものとす。

一〇、修築後に於ける本港の荷役能力

繫船岸壁及物揚場の荷役能力を一ヶ年一米當り前者を八百噸、後者を六百噸と假定し各荷役場に於ける荷役可能の貨物噸量を計算するに、外地貿易地帯にては約七十四萬噸、糸崎船溜にては約七萬噸、魚揚場にては約六萬噸、既成第一號及第二號埋立地にては約三十四萬噸、三原船溜にては約三十一萬噸、木材港にては約三十萬噸、其他荷役場にては約十萬噸にして合計百九十二萬噸に達す。之に鐵道専用荷役場に於ける三十萬噸、鐵道専用荷役場は現在擴張の餘地乏しきを以て大體現況と大差なきものとす。工場専用荷役場に於ける五十五萬噸、工場出入の貨物噸量の推定は頗る困難なりと雖も大體現在の二倍と見做す。合計八十五萬噸を加算すれば本港に於ける荷役能力は一ヶ年二百七十七萬噸となる。但し外地貿易地帯に於ける石炭の本船接岸荷役能力を一米當り八百噸と定め

たりと雖も若し機械設備により其能力を一米當り二千噸に上らしむるに於ては更に約二十萬噸を増加し得べし。

一一、將來の擴張

鹽田の前面を埋築する場合には埋立法線より最小限幅二十五米は之を公共用荷揚場として保留し將來の港灣施設の擴張に充當すること。

スタンダード貯油所は將來適當の時機に於て他に移轉するを以て得策なりと考へらる。而して之が實現の場合には其地先海面を適當に埋立て岸壁を築造し以て本船の接岸荷役を可能ならしむるは蓋し有効適切なるものなるべし。新に帝人工場地先に施設せんとする外地貿易地帯中繫船突堤の南岸は將來之を適當水深の繫船岸壁に改築し、又之に接する埋立地東岸の護岸をも物揚場に改築し以て本港貿易將來の進展に順應せしむ。但し此の場合には沼田川流砂の進入を防止する爲め埋立地の東南隅より防砂堤を築出するの必要あるべし。

本市木原に於ける縣營埋立地方面は大局より見て本港内重要な個所なり。若し其前面を適當に埋築すれば更に約八萬平方メートルの港灣設備地を收得し得る

を以て本地帯は本港將來の好擴張地域なり。

第四章 工費概算

工費概算は八百五十萬圓にして其内譯左の如し。

工 事 名	工 種	數 量	單 價	金 額	摘 要
三原船溜及内港水路の改良工事	物 揚 場	五五米	五〇〇	九四、五〇〇	水深四米及三米
	浚渫及埋立	七〇千立米	八〇〇	二五、五〇〇	埋立土量四、〇〇〇立米
	陸上設備			五、〇〇〇	
	浮 棧 橋			一〇〇、〇〇〇	
	陸上設備			一〇〇、〇〇〇	
第一號第二號埋立地増補工事	陸上設備			一〇〇、〇〇〇	
	陸上設備			六、〇〇〇	
	陸上設備			五、〇〇〇	
魚市場前魚揚場改良工事	魚 揚 場	一〇〇米	五〇〇	五〇、〇〇〇	水深三米
	護 岸	二〇〇	三〇〇	六、〇〇〇	

系良崎工船溜	埋 立	一五千立米	八〇〇	一三、〇〇〇	船客昇降用施設を含む
	物 揚 場	二二〇米	三〇〇	二〇、五〇〇	
	護 岸	七五米	三〇〇	四、〇〇〇	水深二米
	浚渫及埋立	一五千立米	八〇〇	一三、〇〇〇	浚渫、埋立の土量孰れも一五、〇〇〇立米
	陸上設備			一四、〇〇〇	
帝人工場地先	浮棧橋の移轉及増設			一一〇、〇〇〇	
	岸 壁	二五〇米	二、五〇〇	三、一七、八〇〇	水深九米、八米
	物 揚 場	八五〇	六〇〇	五、一〇、〇〇〇	水深四米
	護 岸	二、一八〇	三〇〇	六、五四、〇〇〇	
	浚渫及埋立	一、〇二千立米	八〇〇	八、一六、八〇〇	浚渫土量八四、〇〇〇立米
和立田工事	陸上設備			四、五〇、〇〇〇	
	物 揚 場	一、一八〇米	三〇〇	二、六四、六〇〇	
	護 岸	一、七五〇	一〇〇	一七、〇〇〇	水深二米

昭和十八年三月

糸崎港修築計畫調查委員

安 藝 杏 一
高 橋 嘉 一 郎
三 浦 義 男
太 田 丙 子 郎
山 本 五 郎

合 計	事 務 費	雜 費 及 維 修 費	機 械 費	波 除 堤	木 柵
八、五〇〇、〇〇〇	四五〇、〇〇〇	四八、〇〇〇	四〇〇、〇〇〇	二、五四千立米	二四〇〃
				四〇〇	二四〇〃
				一六、〇〇〇	一四、四〇〇
				二、〇四三、〇〇〇	六〇〇
				八〇〇	六〇〇

(緊船浮標三個、三噸揚起重機三臺、土地買收其他補償費を含む)



糸崎港修築計畫平面圖

